「一般廃棄物処理基本計画」の基本的な考え方について

資料２－１

現行計画（平成 23 年度～）	反映すべき社会情勢や市民・事業者意識など	寝屋川市一般廃棄物処理基本計画（令和３年度～）

現行計画（平成 23 年度～）

＜基本理念＞

資源化で　やさしさめぐる　寝屋川市

～ごみを資源に“もったいない”からはじめる

ライフスタイルで環境にやさしい循環のまちづくりを進めます～

当時の社会情勢と方向性

○平成２０年に第二次循環型社会形成推進基本計画が策定し、低炭素社会・自然共生社会との統合的な施策の推進、地域循環圏の構築、3R に関する国民運動等を推進。

○改正容器包装リサイクル法（事業者から市町村に資金を拠出する仕組など）が完全施行。

＜基本施策＞

基本方針	施策	実施施策と現状
“もったいない”による４Ｒの推進	1.減量化･再資源化の推進 ①環境にやさしい販売活動の推進 ②自主的なごみ減量行動の推進 ③家庭系ごみの減量推進 ④事業系ごみの減量推進 ⑤再利用の推進 ⑥環境学習の推進	○総排出量原単位 目標達成が困難 類似都市の平均以下 【グラフ】資料２－２の１参照 ○家庭系ごみ原単位 目標達成見込み 類似都市の平均以下 【グラフ】資料２－２の２参照 ○事業系ごみ原単位 目標達成が困難 類似都市の平均以下 【グラフ】資料２－２の３参照 ○リサイクル率 目標達成が困難 類似都市の平均以上 大阪府内で４番目に高い （※守口市除く） 【グラフ】資料２－２の４参照
安全･安心なごみ処理の推進	2.適正かつ効率的な処理の推進 ①収集体制の整備 ②中間処理施設の維持管理の徹底・計画的整備 ③最終処分量の削減と最終処分場の安定的確保 ④不法投棄等防止対策の推進	○寝屋川市クリーンセンター新焼却施設が H30.3 に竣工（200ｔ/日） ○最終処分量　達成見込 【グラフ】資料２－３の１参照
責任と役割に応じた行動の推進	3.災害体制の充実 ①災害時における体制の強化 ②広域的な支援・連絡体制の確立	○H29.3 寝屋川市災害廃棄物処理計画を策定（H31.2 第２版）

＜ごみ減量・プロジェクト＞

～“1 万トン減らそう”
未来のために!!～

H29～R1 の３カ年で H27 の焼却処理量より１万トンの削減。
未達成だが、一定の効果が見られた。

【グラフ】資料２－３の２参照

反映すべき社会情勢や市民・事業者意識など

【社会情勢】

・人口減少や超高齢社会の到来による、年齢層・居住地の構成やコミュニティの変化

・平成 27 年に国連総会において、2030 年までに達成すべき 17 のゴール「持続可能な開発目標」が採択。

・プラスチック資源循環戦略（令和元年）

①2030 年までにワンウェイプラスチックを累積 25%排出抑制

②2025 年までにリユース・リサイクル可能なデザインに

③2030 年までに容器包装の６割をリユース・リサイクル

④2035 年までに使用済プラスチックを 100%リユース･リサイクル等により、有効利用

⑤2030 年までに再生利用を倍増

⑥2030 年までにバイオマスプラスチックを約 200 万トン導入

・食品ロス削減推進法（令和元年）

基本的な方針

2000 年度比で 2030 年までに食品ロス量を半減させる

【平成２８年度ごみ減量・リサイクルに関するアンケート調査結果】

・ごみ減量やリサイクルについての関心　**約 88%**

（関心がある・どちらかと言えば関心があると回答）

・市に必要な取組み

ごみの減量･リサイクルの情報提供の充実や、ごみの分別についての市民周知と回答　約 48%

・可燃ごみに間違って入れていたもの

古紙　約 34%

（古紙として分別すべきものを可燃ごみに間違って入れていたと回答）

【平成２８年度寝屋川市ごみ質分析調査結果】

□家庭系ごみ組成

・**資源化可能物**が可燃ごみのうち **24.9%**、不燃ごみのうち **25.1%**含まれていた。

・可燃ごみと不燃ごみの合計のうち廃プラ・ペットボトルは **7.3%**含まれていた。

・可燃ごみのうち食品廃棄物は 41.3%、内、**手つかず食品**は **6.9%**含まれていた。

□事業系ごみ組成

・発生抑制の取組を推進することにより発生が抑制できる物が 21.9～44.6%あり、そのうち、**売れ残り・作りすぎ食品や食べ残し等**の厨芥類は **4.0～30.3%**含まれていた。

・資源化が可能なものは約 16～49%含まれていた。

寝屋川市一般廃棄物処理基本計画（令和３年度～）

＜基本理念＞（案）

持続可能な循環共生型のまち　ねやがわ
～ごみを減らし、適正な循環利用へ～

持続可能な循環共生型のまち　ねやがわ
～大切なものを大切に～

＜基本施策＞

基本方針（案）	施策	課題
“もったいない”による４Ｒの深化	（未定）	○本市のごみ総排出量原単位はごみ減量･プロジェクトの成果もあり、減少傾向にあったがここ３年は下げ止まっている（R1 845.1g/人・日）。ただし、類似都市の平均（931g/人・日）を下回っている。 ※類似都市は市町村一般廃棄物処理システム評価支援ツール平成 30 年度実績版を用いているため、実績の数値とは異なる場合がある。 ○ただ減量するのではなく、資源化可能物（古紙やプラスチック類、食品残渣など）の資源化、質の高い資源化を行う必要がある。 ○一部の熱心な人でなく、無関心層を取り入れる有効な PR などによる全体の底上げをしていく。
安全・安心なごみ処理の推進	（未定）	○寝屋川市クリーンセンターごみ処理施設（破砕・切断・手選別）は稼働後 26 年を経過しており、安定的な施設運営を継続するため適正な維持管理を行う必要がある。
責任と役割に応じた行動の推進	（未定）	○災害時の対応に加えて、SDGs の目標の一つであるパートナーシップを目指して、市民・行政・事業者の取組が必要である。

＜第二弾ごみ減量・プロジェクト＞

標語（案）	取組目標	論点
・シンカするまちねやがわ　持続可能な循環のまちづくり ・ともに取組みシンカする　循環のまちねやがわ ・“ともに取り組もう”シンカするごみ減量	（未定）	○市民・事業者に向けた戦略として次の一手を立ち上げる必要がある。